



公立世羅中央病院だより No.64

救急外来受診の手引き(17)

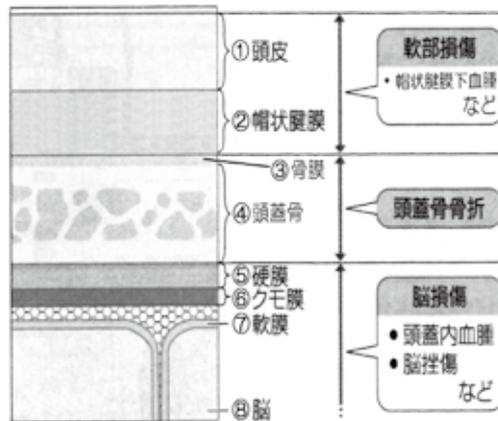
―頭部外傷―

公立世羅中央病院 脳神経外科 副院長 門田 秀二

頭部外傷（あたまのけが）は、重篤な場合は、意識障害や麻痺、症候性てんかんなどの後遺症が発生する可能性がありますので、適切な対処が望まれるところです。まず、あたまの大きな構造を説明します。頭部の構造物は、髪の毛の下には、①頭皮②帽状腱膜③骨膜④頭蓋骨⑤硬膜⑥クモ膜⑦軟膜⑧脳実質の順番に存在します。この構造の順番は、重要です。

頭部外傷の受傷機転には、交通事故、転倒・転落、打撃など様々ですが、高エネルギー外傷（交通事故・高所からの転落など）は、最も要注意です。頭部だけでなく、全身への注意をも怠ってはなりません。あたま以外も外傷を負っている可能性があるからです。

頭部外傷後、意識障害（覚醒しない、開眼しない、変な事を言う）・



嘔吐・麻痺・けいれんなどがあれば、救急車を要請してください。救急車で病院に運ばれたら、一般的処置の後に、あたまのCTスキャンを撮るようになります。あたまのCTで異常が見つかれば、入院あるいはさらに高次の医療機関に転送転院が必要になる場合もあります。

頭部の構造で④頭蓋骨に骨折があれば、脳にもかなりの衝撃が加わっていることを覚悟しなければなりません。所見としては、頭蓋骨より深部の所見がより重要です。④頭蓋骨と⑤硬膜の間に出血すれば、急性硬膜外血腫。⑤硬膜と⑥クモ膜の間に出血すれば、急性硬膜下血腫と呼び、最も緊急手術の適応になる可能性が高い頭部外傷です。急性硬膜外血腫は必ず頭蓋骨骨折を伴います。

さらに深部に行きますと、⑥クモ膜と⑦軟膜の間に出血すると外傷性クモ膜下出血と言います。脳実質に出血すると脳挫傷あるいは外傷性脳内血腫と言います。脳挫傷は大きければ手術適応になる場合がありますが、手術しても壊れた脳実質に依じて後遺症が残る可能性が高いです。

先述の頭蓋骨骨折の中には、眼や鼻に近い方の骨折（頭蓋底骨折と言います）もあり得ます。眼・耳の症状など重篤化しやすく、髄液漏も起こります（髄膜炎の原因になります）ので、頭部外傷後に、眼の周りがパンダのようになつたり、耳の後ろに皮下出血があつたり、サラサラ

した鼻水が続くなどがあれば、頭蓋底骨折を疑います。髄液漏があれば、頭蓋内に空気が貯留する気脳症という病態が発生します。

今まで述べてきた頭部外傷は、頭部を強打（直接何かに頭部がぶつかる）して発生します。あたまの特徴で、受傷部位と反対側に損傷が生じる場合もあります。打った側に起こる損傷を直撃損傷といい、打った側と反対側に損傷が起こることを対側損傷と言います。これは、頭蓋骨と脳実質が別々の動きをする事に起因しています。

直接あたまを打たなくても回転しながら受傷した場合（スケートボードや武道）、脳の内部にひねり（剪力といいます）が加わり損傷が生じる事があります。その場合は、遷延性意識障害など重篤になる危険性がありますので、あたまを打ってなくても、症状がある場合は要注意で救急搬送の対象になります。

■補足1

頭部外傷後の記憶の断層について

あたまを打つと、記憶が形成されにくい状態になりますので、思い出せない時間帯があることがあります。これは記憶が出来ていないためです。受傷した本人はそのことが不安になりやすいですが、ある意味では生理的な現象です。ただ、記憶の

欠落した時間帯がどんどん長くなつていく場合は、すぐ受診してください。

■補足2

軽い頭部外傷から2〜3週間以上経過して調子が悪くなった場合

あたまの構造の⑤硬膜と⑥クモ膜の間に徐々に血腫が形成される慢性硬膜下血腫や、外傷後水頭症の可能性があります。症状は、頭痛・麻痺・認知機能の低下・歩行障害・失禁（排便を失敗する）等です。その場合は、脳神経外科を受診しましょう。

■補足3

こどもの頭部外傷について

こどもは、派手に階段から落ちても体重が軽い・頸椎が完成していないなどの事情で重篤化しない場合もあります。油断はできません。ずつと機嫌が悪い・嘔吐・けいれんがあれば、すぐ受診するべきです。こどもは脱水になりやすかったり、代謝が崩れやすいため、点滴が必要になる場合も多いです（自家中毒とかアセトン血性嘔吐などと表現します）。また、小児には、②帽状腱膜と③骨膜の間に血が貯まりやすいなどの特徴があり、相対的に頭部の割合が大きいため、想像より貧血になりやすいので、打ったあまがぶよぶよしていたら、小児科が脳神経外科を受診して下さい。

けんこう保つと情報

パーキンソン病教室の開催について

日時 3月12日(木) 13時30分～15時

場所 尾道市立市民病院 新館4階 大会議室 (尾道市新高山3丁目1170-177)

内容 尾道パーキンソン病友の会主催 「パーキンソン病教室」

(1)「パーキンソン病の薬の話」

講師 尾道市立市民病院薬剤師 村上 史承 先生

(2)「パーキンソン病・進行を防ぐ」

講師 尾道市立市民病院内科 山脇 泰秀 先生

対象となられる方は、パーキンソン病患者とそのご家族です。また、事前の申し込みの必要はありませんので、お気軽にご参加ください。

【お問い合わせ先】 広島県東部保健所 保健課 保健対策係 ☎ 0848-25-2011

けんこう 心の健幸づくり講演会

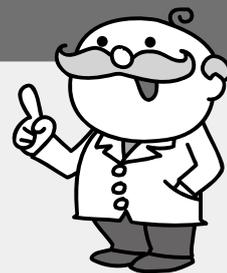
日時 3月23日(月) 13時30分～15時30分

場所 甲山保健福祉センター

講演 「うつ予防に効く！頑張りすぎない生き方」

講師 府中市立湯が丘病院 副院長 若木 俊夫 先生

【お問い合わせ先】 健康保険課 健康増進係 ☎ 25-0134



アルコールと健康を考えるつどい

日時 3月3日(火) 13時30分～15時

場所 世羅保健福祉センター

アルコールで悩まれている方などが集まって、アルコールについて考えたり、交流することを目的に、「アルコールと健康を考えるつどい」を開催します。

参加希望の方は、2月27日(金)までに健康保険課へご連絡ください。

【お問い合わせ先】 健康保険課 健康増進係 ☎ 25-0134